

令和5度「文化芸術による子供育成推進事業 出演希望調書(実演芸術)」

分野、種目（該当する分野、種目を選択してください。）

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

申請区分（申請する区分を選択してください。）

申請区分	A区分のみ
------	-------

複数申請の状況（該当するものを選択してください。） ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	2企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制（該当するものを選択してください。）

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。（グレーアウトされます。）

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	とくていひえいりかつどうほうじん げきじょうそうぞう 特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク		団体ウェブサイトURL https://za-koenji.jp/
	代表者職・氏名 理事長 ・ 牧野 望		
制作団体所在地	〒 166-0002	最寄り駅(バス停)	JR高円寺駅
	東京都杉並区高円寺北2-1-2		
電話番号	03-3223-7500		
ふりがな 公演団体名	とくていひえいりかつどうほうじん げきじょうそうぞう 特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク		団体ウェブサイトURL https://za-koenji.jp/
	代表者職・氏名 理事長 ・ 牧野 望		
公演団体所在地	〒 166-0002	最寄り駅(バス停)	JR高円寺駅
	東京都杉並区高円寺北2-1-2		
制作団体 設立年月	平成17年 7月		
制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
	理事長:牧野望(マキノノゾミ) 副理事長:鈴木聡、高宮水木 理事:桑谷哲男、坂手洋二、樽川健司 監事:長谷基弘、平山鉄郎	主な構成員:永井愛/渡辺えり/横内謙介 加入条件:理事長が別に定める入会申込書により、理事長宛に申し込むものとする。会員の入会については特に条件を定めない。	
事務体制 (専任担当者の有無)	他の事業と兼任の事務担当者 を置く	本事業担当者名	和泉将朗、石原直子
経理処理等の 監査担当の有無	有	経理責任者名	千葉美香

制作団体沿革	舞台芸術の専門家によるグループが、平成17年7月にNPO法人として正式に活動を開始。平成18年10月には、杉並区立杉並芸術会館「座・高円寺」の指定管理者に選出され、同劇場の運営を開始。 劇場を拠点とし、子どもを対象とした演劇公演の企画制作や、毎週土曜に幼児から参加できる絵本のイベント、毎週日曜に小中学生に向けたワークショップ、ゴールデンウィークや夏休みには親子で楽しめる工作ワークショップなど、数多く実施している。 また、付設の演劇学校「劇場創造アカデミー」では、大学や各地域の公共劇場とネットワークを築き、舞台芸術のノウハウを文化・芸術の分野だけでなく、地域のコミュニティで生かしていくための人材を育成。 地域の4大祭りと称される「高円寺びっくり大道芸」「東京高円寺阿波おどり」「高円寺フェス」「高円寺演芸まつり」を積極的に応援協力し、地域の活性化事業を行っている。		
学校等における公演実績	平成21年より、杉並区内外の演劇鑑賞教室を、延べ538校で実施、44,000以上が鑑賞。学校公演用に制作した舞台作品は、 ・平成23年度児童福祉文化賞受賞作品『旅とあいつとお姫さま』 ・平成24年度児童福祉文化賞推薦作品『ピン・ポン』 ・平成25年度児童福祉文化賞推薦作品『ふたごの星』 ・平成30年度児童福祉文化賞推薦作品『ピノキオ』 ・平成30年度厚生労働省社会保障審議会推薦作品『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き～』 ・『小さな王子さま』※令和4年新作 座・高円寺公演の他、えずこホール、あさひサンライズホール、美深町文化ホール、桐蔭学園シンフォニーホール、茅野市民会館、宮崎県立芸術劇場、目黒パーシモンホールにおける小中学生、親子劇場・子ども劇場の鑑賞会。平成24年から当該事業で『ピン・ポン』『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き～』巡回公演(令和4年度の予定も含め147校で上演)。		
特別支援学校等における公演実績	平成24年度からの当該事業で『ピン・ポン』の上演及びワークショップの実績あり。 特別支援学校は令和4年度の予定も含め、16校(愛知県立安城養護学校、静岡県立浜名特別支援学校、静岡県立浜松聴覚特別支援学校、福島県立大笹生養護学校、福井県立南越特別支援学校、京都府立舞鶴支援学校北吸分校、京都府立八幡支援学校、茨城県立霞ヶ浦聾小学校、山口県立山口総合支援学校、広島県立呉特別支援学校、広島県立尾道特別支援学校、鹿児島県立鹿屋養護学校、富山県立にいかわ総合支援学校、京都府立丹波支援学校、富山県立富山総合支援学校)、これまでに2,200人以上が鑑賞。 当該事業以外では、平成27年に茨城県立下妻特別支援学校から直接依頼を受け『ピン・ポン』学校公演を実施。		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://www.youtube.com/watch?v=XYmuyqYnq4U	
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	特になし
		PW:	特になし

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 特定非営利活動法人 劇場創造ネットワーク】

対象	小学生(低学年)	○		
	小学生(中学年)	○		
	小学生(高学年)	○		
	中学生	○		
企画名	座・高円寺レパートリー『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き～』			
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	『フランドン農学校の豚～注文の多いオマケ付き～』 原作●宮沢賢治 上演台本●佃典彦 演出●西沢栄治 美術●長田佳代子 振付・スレージング●神在ひろみ 音楽●園田容子 照明プラン●横原由祐 音響プラン●島猛 衣裳●仲村祐妃子 歌唱指導●伊藤和美 公演時間 70 分			
著作権、上演権利等 の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	
	該当事項がある 場合	権利者名	許諾確認状況	内部保有
演目概要	宮沢賢治の童話『フランドン農学校の豚』と『注文の多い料理店』をベースにしたミュージカル仕立ての演劇です。 【あらすじ】…ある国の王様が新しい法律を発令した。それは「家畜の命を取るときはその家畜自身からの承諾が必要」というもの。どうにかして豚から承諾を得たいフランドン農学校の校長に、それを急かす教師、早く食べたい生徒達。しかし自分が食べられることを知った豚は判を押そうとはしない。そこで豚の気持ちを紛らわせようと一年生が語って聞かせるお話は、森で迷った2人の猟師が入った料理店でヘンテコな注文をつけられ、食べられそうになるもので…。 【上演歴】 平成29年初演。平成30年より毎年、杉並区立小学校4年生への演劇鑑賞教室を実施、64校が鑑賞。令和2年度より毎年、当該事業で巡回公演を実施、27校が鑑賞。他、一般の方への公演や、目黒パーシモンホールでの目黒子ども劇場に向けた公演を行い、令和4年度に100回公演を達成。 令和5年は杉並区立小学校の演劇鑑賞教室の他、大野城まどかぴあ、サザンクス筑後、メニコンAoiシアターにて上演予定。			
演目選択理由	・児童から大人までが身近に感じられる「食べる/食べられる」にまつわる2つの童話の一つにしました。原作のもつ命の大切さや、食べることをしっかりと受け止めてもらえる内容となっています。先生方からは1回の観劇の楽しみに終わらず、「食育」「命の教育」といった学校教育につながる演目であると評価を受けています。 ・台本構成を「演劇界の芥川賞」ともいわれる岸田國士戯曲賞の受賞歴があり、児童劇の経験豊かな佃典彦に委託することで、児童劇の枠に収まらない大人も子どもも楽しめる演劇作品となりました。 ・オリジナル曲や躍動感あふれる振付で、低学年の子どもたちにもわかりやすく、明るくポップな舞台になっています。			
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	・冒頭の晩餐会の場面に農学校の生徒役として登場してもらい、登場人物である校長先生や畜産学の先生たちを他の出演者たちと一緒に迎えてもらいます。(2名) ・豚役が客席に脱走した場面で、豚役の出演者と掛け合いの演技をしてもらいます。(1名) ・お芝居の最後にオリジナルの劇中歌「豚肉料理の歌」(作詞:佃典彦、作曲:園田容子)の一節をキャストと一緒に歌います。ご希望のある学校では本公演当日に振付をしたダンスを、カーテンコールと一緒に踊ります。(全員)			
出演者	校長・山猫A: 荒井志郎(レトル) 教師・山猫B: 大野朱美(東宝芸能) 助手・猟師: 和田裕太(東宝芸能) 生徒A・紳士A: 塚本淳也(ジェイ.クリップ) 生徒B・紳士B: 小玉雄大(スターダス・21Neu) 一年生・料理長: 伊島青(FMG)			
本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む	出演者: 6 名 スタッフ: 13 名 合 計: 19 名		運搬	積載量: 4 t 車 長: 9 m 台 数: 2 台

本公演
会場設営の所要時間
(タイムスケジュール)
の目安

前日仕込み		無		前日仕込み所要時間		5	時間程度
到着	仕込み		上演	内休憩	撤去	退出	
8時	8時～13時半		13時半～14時40分	適宜	15時～17時半	17時半	
※本公演時間の目安は、午後、概ね2時間分程度です。							

本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)	6月	7月	8月	9月	10月	
	0日	0日	0日	0日	10日	
	11月	12月	1月	計	34日	
	18日	6日	0日			
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。					

児童・生徒の 参加可能人数	本公演	共演人数目安	全校児童、生徒(要ご相談)
		鑑賞人数目安	350名程度まで(会場条件による)



★体育館を劇場に…
フロアに舞台セットを組み立てます。
子どもたちは劇場で味わう迫力をそのまま楽しむことができます。

「客席からの見え方」には特にこだわっています。
どんなに完成度が高い演劇でも、視界が遮られては1時間以上集中して鑑賞することは困難です。そこで、パイプ椅子よりも低いベンチや、高いスタンド席を持ち込んで、見やすくなる工夫をします。

観客数300名以上（スタンド席有り） ▼


観客数200名未満 ▼

フロア占有面積：幅13m×奥行7.2m

公演に係るビジュアル
ルイメー
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、採
択団体へ図面等詳
細の提出をお願い
します。

★原作にはない、演劇ならではの表現…
「好奇心旺盛な一年生」「豚によく似た料理長」「劇中劇」など、オリジナル要素と演劇ならではの表現方法を取り入れています。【食べる側】と【食べられる側】の視点を持って、出演者と一緒に考えてもらいたいです。



児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	70名程度まで(45分毎に入替可)
ワークショップ 実施形態及び内容	標準:45分 講師: 出演者(ファシリテート、演技指導、ナレーションを担当)3〜4名、 スタッフ(音響、照明、タイムキープ担当)1〜2名 ①自己紹介、作品紹介(5分程度) ・出演者とスタッフが自己紹介し、その場にいないメンバーのことを伝え、演劇は1人の力では作れないことを説明します。 ・本公演で行う劇の紹介し、原作の「フランドン農学校の豚」「注文の多い料理店」を合体された話であることを伝えます。 ②ウォーミングアップ(5分程度) ・すぐに演じることはプロの俳優でも難しいので、ウォーミングアップで緊張をほぐします。 ・ゲーム仕立てになっている「講師の言ったことを行う」ワークで、声を出さずに歩く、すれ違う人と手を振る…等、簡単な動作から、スローモーションで歩く、風に吹かれて空を飛ぶ等の非日常的な動きまで、想像力を刺激しながら体を動かします。 ③チームでお芝居作り(30分程度) ・本公演に結びつく、「豚を育てる」劇を数分で話し合っ作ってもらいます。 ・ステージで発表をする際には声を出しません。代わりに講師がマイクでナレーションを付けます。 ・1回目の発表後に講評を行います。 ・同じテーマ、チームでブラッシュアップして2回目の発表を行います。 ④感想、まとめ(5分程度) ・子どもたちから演じてみた感想や、他のチームの発表を観ての感想を聞きます。 ・講師も感想を言い、演じることの楽しさと難しさを改めて伝えます。		
ワークショップの ねらい	・俳優のリードで演劇表現する楽しさを知り、達成感を持ってもらいます。発表と練習を繰り返すことで自信が付き、講評もらうことで意欲が湧きます。また、自身が発表するだけでなく、クラスメイトの発表を観劇する体験で、他者の表現手法やアイデアを学ぶ機会を得ます。 ・スタッフワークに興味がある児童には音出しや照明係等スタッフの仕事を手伝ってもらい、皆の協力のもとひとつの舞台が出来上がることを体験します。 ・ワークショップに取り組むことにより、演技やスタッフワークが一朝一夕で出来るものではないと体感出来るので、本公演の鑑賞がより集中力の高いものになります。		
その他ワークショップに 関する特記事項等	・小学生3年生〜中学生までほぼ同じ内容で行うことが可能です。人数によっては複数のクラスや学年合同で行えます。 ・1回90分(2コマ分)で行うことも可能です。その場合、ウォーミングアップのゲームとお芝居作りのテーマを1つずつ増やして行います。 ・学校のご要望に合わせて内容の調整が可能です。		

知りたいことはなんだろう？
明日の天気？ テストの答え！ 晩ご飯のおかず？
いやいや。

なんで夏は暑いんだろう、とか
リトマス試験紙の赤と青について
夕飯のカレーの作り方。

それから。

あれ、カレー粉ってなにでできているんだろう？
どうやって作られるの？ だれが見つけたの？
いつからあるの？……

大人がなんでも知ってるなんて、思ってる？
大人だってなんにも知らない、ほんとね。
だから、きくだけじゃだめさ。
自分で、ずんずん、ずんずん考えなくちゃ。
子どもも大人も、
ずんずん、ずんずん考えれば、
いつもの夕ごはんが、
特別なものになるはず！

フランドン

農学校の豚

注文の多い
オマケ付き

秋の劇場14 あしたの劇場
座・高円寺レバトリ

劇場へ いこう！

どうして人間は食べられないのに
豚は食べられてしまうの？

座 高円寺
ZA-KOENJI PUBLIC THEATRE

お芝居をみるてがかり

【スリッパと歯磨楊枝】『フランドン農学校の豚』が書かれた大正時代、その頃の豚のえさは、食品工場から出る廃棄処分される食品や、家庭から出る食べ残しなどが中心でした。スリッパも歯ブラシも、今とは違う素材からできていて、スリッパには、竹の皮、イ草、蒲、といった植物が使われ、歯磨楊枝＝歯ブラシは、牛の骨の柄に豚毛を植えたものだったそうです。

【ものを量るための単位】ちょっと聞きなれないことばを使っていますね。これは日本で、昔から使われてきた尺貫法という単位です。お芝居の中で出てくるのはこんな単位。

【重さ】1匁＝3.75グラム
1000匁は1貫＝3.75キログラム
【体積】1合＝0.18リットル
10合は1升
10升は1斗＝18.039リットル
【長さ】1寸＝3.0303センチ
今も、お米やお酒をはかるとき、建物を建てる時などに使われています。

【触媒】そのものの自身は変化しないで他の物質の化学変化のなかたちをするもの。豚がえさを食べる＝なかたちをすることによって、水やわらが肉にかわることを示しています。

【ヨークシャイア】豚の品種。イギリス

のヨークシャー州が原産の白豚。パークシャーはパークシャー州原産の黒豚のこと。

【肥育】家畜の肉量や肉質を良くするために、運動量を制限して、良質のえさをあたえます。

【阿(亜)麻仁】亜麻仁油。豚のえさにまぜて、肉をやわらかくする食用油。

【蹄鉄】馬のひづめに打ちつけた鉄具。

【ショルダー】肩肉

【ぶま】不問。間がぬけていることやようす。

【チッペラリー】第一次大戦中にイギリスの軍隊で歌われていた、恋人を残してきた自分の故郷をなつかしむ歌。

戦後、日本でも流行しました。

【傍若無人】人のことを気にかけずに、自分勝手に振る舞うこと。中国の故事からでたことば。

【蓑帽子】雪ん子ともいう。雪の多い地域で、雨や雪をふせぐのに用いられた、頭部から背中部分をおおう防寒具。ワラやスゲ、ぬのなどでつくられました。

【ズック】木綿や麻を織った平織り布。帆布・テント・かばん・靴などの素材としても用います。

【金牛宮】太陽の通り道にある12の星座のうち、2番目にあるのが金牛宮。

星座でいうと牡牛座にあたります。

【弦月】上弦または下弦の月。弓ははり月



西沢栄治
にしざわ えいじ

東京都出身。演出家。JAM SESSION 主宰。ギリシャ劇や歌舞伎などの古典を題材に、力強い舞台をつくる。日本演出者協会「若手演出家コンクール2003」で最優秀賞受賞。主な演出作品として「天保十二年のシェイクスピア」「女の平和」「四谷怪談」「阿部定之次」「十二人の怒れる男」ほか。

佃 典彦

つくだ・のりひこ



愛知県出身。劇作家・俳優・演出家。劇団日級遊撃隊主宰。日常に突飛な非日常が巻き起こる不条理劇を得意とし、新劇から児童劇まで幅広いジャンルを越えた作品を提供している。[KANKAN男]で第四回読売演劇大賞優秀作品賞。「ぬけがら」で第五回岸田國士戯曲賞など受賞多数。

参考文献

- 「素顔の宮沢賢治」板谷栄城 ちくま文庫
- 「宮沢賢治全集(9) 書簡 ちくま文庫
- 別冊宝島「宮沢賢治という生き方」宝島社
- 国文学 解釈と鑑賞「宮沢賢治 光と影」
- 「宮沢賢治 童話の世界」至文堂
- 「宮沢賢治ハンドブック」新書館
- 文藝別冊「宮沢賢治 修業と教養」河出書房新社

- 子どもだって哲学「いのちってなんだろう」中村桂子ほか著 佼成出版社
- 「いのちをいただく」内田美智子著 西日本新聞社
- 「うちは精肉店」農山漁村文化協会
- 「いのちの食べ方」森達也著 理論社
- 一般社団法人日本養豚協会 養豚の歴史 <http://www.jppta.biz/rekishi.html>

お芝居をみる前に

[どんなお話かな?] — あらすじ

雪深いフランドン王国にある農業学校。今日は、校長先生も参加して、晩さん会が開かれます。おいしそうな料理に、みんなわくわく。でも、「待って!」それを見ていた1年生が声を上げます。だって、その料理に使われている「豚」は……。

1年生が観察しているのは、学校で育てている豚。なんでも食べる食いしんぼうの豚。生徒たちから、「糞や水から、肉や脂肪をつくる」不思議な力を持っている生きもの、なんていわれて、豚はちょっと自慢気だ。けれどある日、えさの中に自分と同じ短い毛が使われている歯磨楊枝をみつけた。なんだか変だ……。それから何べんもねたり起きたりするうちに、ずんずん太った豚は、今度は、畜産学の先生のふるまいに、首をかしげる。身体をあちこち測られたり、特別のえさを食べさせてもらったり、いままでとはちがう待遇だぞ、どうしてだろう?……。

そしてある日、フランドン王国の王さまから、「食肉にする時には、その家畜の許可が必要だ」という法律が発令されて……。

このお芝居は、詩人・童話作家として知られる宮沢賢治さんが書いた、『フランドン農学校の豚』と『注文の多い料理店』の二つのお話からできています。どちらも大正時代後期に書かれた「食べる」ことにこだわったお話です。

お芝居に隠された大切な問い

[賢治さんはなぜ“食べる”にこだわったのでしょうか]

宮沢賢治さん(1896年~1933年)は、「いのちを生かす、大切に使う」という考えから、肉や魚を食べない時期がありました。自分が生きるため、ほかの生きものの命をうばう自然界のしくみについて、ずっと疑問を持ち、なやんでいたのです。賢治さんの「食べる」ことへのこだわりは、ほかの作品の中にもあらわれています。『雨ニモマケズ』『ビジテリアン大祭』『よだかの星』……。

今回のお芝居のもとになった二つの話のうち『フランドン農学校の豚』は、賢治さんが農学校

の学生だったり、教師だったりしたときに、育てていた豚を食肉にするようすをみて感じたことをお話にしたと言われています。飼育されている豚は、食べられる自分の運命をどのように感じているのだろうか?

『注文の多い料理店』は、逆に、狩猟を楽しむ東京から来た二人の紳士が、動物たちに食べられる立場になってしまうお話です。自然や動物のいのちを大切にしないごうまんな二人は、レストランの案内板の言葉をつごうよく受け取って、最後に自分たちが食べられてしまうという危機に直面します。

賢治さんは、友人にあてた手紙の中でこんなことも書いています。

……食べられるさかながもしわたしのうしろにいて見ていたら、何と思うでしょうか?「この人は、わたしの唯一のいのちをすてたそのからだを、まずそうに食っている」「怒りながら食っている」「やけくそで食っている」。……さかなや鳥の心づくしの犠牲があつてこそその料理を前に、不平や、これをいのちとも思わずにまずいのどのという人たちを、食われるものが見ていたら、何というでしょうか。



[いのちを生かす、大切に使う]

いのちには形がありません。いのちがあるとわかっていても、いのちそのものを見ることはできません。でも、いのちはずっとずっとつながってきました。

最初にいのちが生まれたのは、38億年前。たった一つの細胞として誕生し、そのいのちをつなげるために、さまざまな種や形に進化していきました。生きものは生きものからしか生まれません。環境や天候の変化や、たくさんの危機を乗り越えて、生まれては死に、生まれては死に、まるでバトンリレーをするかのように、いのちをつなげてきたのです。そうして、およそ700万年前に人類が誕生しました。

今、私たちがここにいるために、どれだけ多くのいのちがつながってきたのでしょうか。みなさんは、お父さんとお母さん二人からいのちをさずかりました。お父さんとお母さんは、そのまたお父さんとお母さんから生まれました。そのまたお父さんとお母さんとお母さんと……そうやって、どんどんどんどんさかのぼってみると、だいたい500年くらいの間に、みなさんのいのちのために2000人をこえる人のいのちがつながっていることがわかります。つまりその2000人をこえる人の一人がいなくても、みなさんは生まれなかったのです。逆を考えてみましょう。みなさんのいのち、たった一人のいのちは、この先500年に何人のいのちにつながることにになりますか?

それだけではありません。朝食、給食、おべんとう……、食卓にならんだ、ごはんやおかず。あたりまえに、食べていませんか? だから、口に入れるそのまえに、ちょっとだけ想像してみてください。肉や魚、野菜や果物……、料理される元のすがた。世界中の食べ物が入る理由。それから、どんな人が育てたのかな、とか、どこで、どんなふうに、育ったのかな、とか。

わたしたちは、生きるために、いろいろなものを食べています。私たちは生きものしか食べられません。つまり、たくさんのいのちをいただいている。そうしたいのちに、生かされている。そのことを忘れないように、ごはんを食べる。大切に食べる。おいしく食べる。のこさず食べる。絶対、あしたの元気の素にする!

[童話からお芝居を作る時に、どんな工夫をしましたか?]

——脚本について、佃典彦

宮沢賢治の作品のとても大きな特徴は、その独特の言葉がもつニュアンスにあると思って、原作の言葉を大事にしました。そう語るの、このお芝居を書いてくれた佃典彦さん。

そうなんです。賢治さんのお話には、現実のようでない夢のよう、日常のようでない自分が考えたこともない世界に連れていってくれる、とても不思議な力があります。

灰色の気分……

灰色にしてややつめたく、透明になるところの気分

自分の身体中の毛が風に吹かれた草のよう、ザラザラッと鳴ったのだ

この教師は時々まるで北極の、空の様な目をして豚の体をジッと見る

風がどうと吹いてきて、草はざわざわ、木の葉はかさかさ、木はごんごんと鳴りました



音、におい、気温やさわった感じ、まるで身体全体でお話を体験しているような気がしませんか? お芝居では、俳優たちが話すこうした賢治さんのことばのほかに、歌や音、ダンスや動き、衣装や美術を加えて、みなさんが、お話の世界を旅する助けをしています。俳優たちがかわるがわる豚になるのもその工夫のひとつです。どうぞ、みなさんも豚の鼻を受け取ったつもりで、賢治さんがみなさんに伝えたかったことを一緒に考えてみてください。